



Fukuoka Prefectural University

Kendai

magazine 2014 秋号

no.17

福岡県立大学広報

Contents

新副理事長挨拶、入学式	2P
名誉教授、田川飛翔塾	3P
オープンキャンパス	4P
心理教育相談室	5P
ラーニングコモンズ落成	6P
国際交流	7P
サークル紹介	8P
就活奮闘記	9P
新役員・部局長	10P
新規採用教職員	11P
科学研究費他	12P



第23回

秋興祭

～想いをひとつに～ Team 秋興祭

11.8(土)～9(日)

今年で福岡県立大学秋興祭は23回目を迎えます。今年も昨年と同様、100名を超える大規模の委員会として活動することとなりました。私たち実行委員は、週に1回行われる全体会議で仕事の確認やボランティアの連絡、委員同士の交流などを行い、みんなでワイワイ楽しく集まっています。実行委員会の仕事は、宣伝・渉外・会場設営・イベント・企画・設備管理と、6つの部署によって振り分けられています。各部署、仕事内容には特色があり、それぞれ全く異なる大変さや楽しさがあります。そのため、1年次にどの部署に入るのかが実行委員にとっては大きな分かれ道となり、それも一つの楽しみです。

秋興祭当日、自分たちが秋興祭自体を楽しむ暇はほとんどありません。しかしそれ以上に秋興祭を成功に終えた時の喜びは計り知れません。一人でも多くの方が「秋興祭楽しかった。」と思ってくださるよう、実行委員は一生懸命準備に励んでいます。そんな実行委員たちが走りまわる姿を見かけたら、温かい目で見守って下さると幸いです。みなさまのご来場を、実行委員一同心からお待ちしています。

第23回 秋興祭実行委員長 久森 彩



就任にあたり

[H26.4.1 付]

本学の定款に定めが有るところですが、実践を重視した専門の学芸を教授研究して、豊かな創造性を身につけた人材を育成し、もって文化の向上・保健・福祉の増進及び地域の発展に寄与することを目的とした本学の副理事長を拝命し、その職の重責に鑑み、身の引き締まる想いです。

私事で恐縮ですが、これまで30年間に渡り、大学の管理職として九州大学を皮切りに、いくつかの大学を経験して参りました。

その時々々に奇問、難問、さまざまな課題に遭遇いたしました。それぞれの職務を推行するにあたり、2つの基本姿勢を持って対応いたしました。

その1つ目は、いかに困難なことであれ、事実を事実として受け入れて解決策を考えることです。

例えば夜道でサイフを落としたとします。その時の状態を考えると、落とした可能性が高いのは、あの暗い場所ではないかと解っていても、つい、その近くの明るい外灯の下を中心に捜してしまうものです。

副理事長
渡橋 正博



それではサイフは見つかりません。困難であっても可能性の高い暗い場所から探す方が解決への近道でした。

2つ目はサービス精神を持って事にあたることです。

すばらしいアイデアが泉のごとく湧いてくるような非凡な才能を持たれた方は別ですが、私のような凡人は少し意識してサービス精神を持って対応していますと、数年後、想いもよらぬ時に、助けをいただき大変感謝したものです。

これからも、この基本姿勢は変えることなく、皆様と共に本学の発展に向けて尽力する所存ですのでよろしくお願いいたします。

2014(平成26)年4月7日(月)、学部第23回、大学院第18回入学式が行われ、人間社会学部172名、看護学部90名、大学院18名、合計280名が新たな学生生活の一步を踏み出しました。

式において、柴田洋三郎学長は、「4年間の大学生活を実りあるものとするために①未知の課題を見つけて挑戦し新たな知的体型を創造する真の学力を身につけること、②自分の将来の夢や目標の実現を目指す自立に向かっての人間成長の場とすること、③人材養成プログラムに積極的に参加し、主体的に世代や立場の異なった人々の思いを理解しコミュニケーションできる力を養うことの3点を上げ、高く大きな志を持ち自立するように」との告辞を述べられました。

また、ご臨席いただいた小川洋福岡県知事から「①福祉や医療の現場に臨機応変に対応できるしっかりとした知識や技術を身につけてもらいたい。②将来、様々な境遇の方々と信頼関係を築いていく能力が必要となる。そのためにたくさんの人と出会い多くの経験を積んで「人間力」を高めてもらいたい。③困難に直面したとき、決断をしなければならない

ときは、多くの情報を自ら集め必死に悩み、考えること。悩み、考え抜いた決断は、そう簡単に覆されるものではない。④人生でもっとも多感なこの時期に様々なことにチャレンジし、その中で長く続けられる好きなことを見つけ、また、この機会に一生つきあっていける友人を一人でも多く見つけてもらいたい。」との祝辞をいただきました。

これを受け、学部生代表の看護学部の渡彩也香さんが「知性を磨き教養を深め、将来の社会人としての基礎を養うことに努めます。」と宣誓。引き続き大学院代表は人間社会学研究科の矢部航さんが「一層勉学に勤め、保健・医療・福祉の分野で貢献できる専門的職業人としての基礎を養うことに努めます。」と宣誓しました。

最後に、本学の吹奏楽団の伴奏により、会場のみなさんとともに学歌を斉唱しました。

福岡県立大学 入学式



▲柴田洋三郎学長



▲小川洋福岡県知事



▲渡彩也香さん



▲矢部航さん

名誉教授 称号記授与式

平成25年度末で定年退職された、小松啓子前人間社会学部教授、久永明前人間社会学部教授、古橋啓介前人間社会学部教授、茂木豊前人間社会学部教授に福岡県立大学名誉教授の称号記が授与されました。

名誉教授は、多年にわたり本学に勤務し、教育並びに学術上特に功績があった教員に授与される称号で、今回を含め17名に授与されています。

一度に4名に授与するのは、平成9年の第1回授与式以来であり、和やかな雰囲気の中で式が執り行われました。



▲柴田理事長・学長の挨拶



▲久永明
名誉教授

▲小松啓子
名誉教授

▲古橋啓介
名誉教授

▲茂木豊
名誉教授

田川飛翔塾

8月8日、田川地域1市6町1村の中学2年生33名が参加する「田川飛翔塾」の入塾式と小川洋福岡県知事の訓話为本学で執り行われました。

田川飛翔塾は、学校教育では実現できない各界のトップリーダーを講師に迎え、将来様々な分野でリーダーとして活躍する人材を養成するため、添田町の県立英彦山青年の家で実施されるサマースクールです。

本学からも5名の学生が、生徒指導などを行うグループリーダーとして参加し、塾の運営に携わっています。

「将来を担う皆さんへ」と題した知事訓話では、塾生に伝えたいこととして、①しっかり勉強すること、②情熱をもっていろんなものに取り組むこと、③失敗を恐れず決してあきらめないこと、の3点をあげられました。

最後に、福岡県としては、田川地域、福岡県、日本の国の将来を担っていく大事な人材である塾生の皆さんが自分を磨いていくためにいろんな形で支援していきたいと締めくくられました。



▲知事訓話



2014年度



OPEN CAMPUS



2014(平成26)年8月9日(土)に夏のオープンキャンパスを開催しました。今回のオープンキャンパスは、接近する台風の動向を見ながらの開催となり、悪天候が心配される中で、1,189名と予想を超える参加人数となりました。来場者は、県内、九州各県にとどまらず、四国、中国、近畿、遠くは岩手県から参加された方もおられました。

当日は、学長、各学部長からのメッセージをはじめ、各学科の説明会、本学の入試対策のポイントを解説する「小論文・英語解説」、在学生・教員と直接会話が出来る「個別相談コーナー」、看護・心理学を体験できる「体験コーナー」「寮見学」等のプログラムを実施しました。

さらに田川市のマスコットキャラクター『たがたん』も登場し、本学と地域との繋がりの深さをアピールしてくれました。

来場者からは、「学科のことがよく分かった。」「小論文解説、英語解説がとても参考になった。」「在校生による学内案内は、優しくて丁寧だった。」「先生方が優しいかった。」「楽しかった」等のお声をいただき、ご来場いただいた高校生等へ本学の魅力を伝えるうえで、大変有意義な一日でした。

●秋のオープンキャンパスは
11月8日(土)に開催します。



▲人間社会学部展示コーナー



▲看護学部実習体験



▲在学生と話そう



▲推薦入試の英語解説

心理教育相談室より

心理教育相談室は2007年10月に開設され、2014年10月で開設7年を迎えます。

当相談室は、臨床心理士の資格を持った教員を中心とするスタッフで運営しています。大学院生の研修機関を兼ねており、教員の指導のもとに、主として大学院生や大学院修了生が相談をお受けしています。

対象年齢の制限はなく乳幼児から高齢者まで、さまざまな悩みやお困りのことについて、心理学の立場から継続的なカウンセリング（お子様の場合は遊戯療法）を行い、問題の背景を理解したり解決したりしていくためのお手伝いをしています。

予約制となっておりますが、皆様に利用していただきやすいように、月曜日から土曜日まで開室しております。開室時間は10:00から18:00までです。また、お子さんについての相談であっても、保護者のみの来談も可能です。

～不登校などの不適応状態の子どもと保護者の相談～

不登校のお子さんについては、学校ではない場所で相談することができるため、学校に行くことに対する様々な気持ちを抱えているお子さんへの負担が少ないと思います。面接では、お子さんの気持ちに添いながら、評価を気にせずに自由に安心して自己表現ができるようにかかわります。そして、お子さんが、自己肯定感を取り戻し、自ら望む方向に主体的に進んでいけるように援助していきます。その過程で、自らの課題に直面することもあります。そしてそれをこなせるようになるための大事なものを自分の中に見つけたり、課題をこなすための大事な自分を上げたりすることもあります。

多くの場合、保護者とお子さんそれぞれに面接担当者がつき同時並行で面接を行ない、それぞれに必要な援助を行っていきます。お子さんが不適応状態に陥った場合、保護者の方が相談する場所を得ることは非常に重要なことです。というのはわが子への愛情から保護者の方は、焦りや不安で一杯になられているからです。まず保護者自身のそのようなお気持ちが理解される場が必要です。さらに面接では、保護者の方と一緒に、お子さんが感じている思いや気持ち、さらには、お子さんが直面している課題についての理解を深めていきます。それらの作業を通して、保護者の方も悩めますが、その悩みの中から、不適応に陥っているお子さんを育むために大事なものを見つけていかれ、それが、お子さんが自身の課題を乗り越えるための大きな力となっていきます。

相談室室長
人間社会学研究科心理臨床専攻
准教授

岩橋 宗哉



カウンセリングは、子どもにとっても大人にとっても大事なものを見つけたり、作り上げたりする作業です。その点で、宝探しに似ています。今の悩みの中からこれから生きていくために必要な宝を見つける作業です。

～相談の流れ～

①電話受付での申込み：電話受付では、相談内容、きっかけや現在の様子、どのような対応をしているかなどについて大まかに伺い、誰が相談に来られるか、来談希望日時なども確認します。電話受付の情報をもとに、担当者を決め、日程調整などを行います。

②初回面接：通常の面接時間より長い時間（90分が一般的）で、電話受付時の情報をもとに、より詳細に相談内容を伺います。また、どのような支援を希望するかについても確認します。初回面接で得た情報をもとに、後日開かれる会議で今後の面接方針や、必要に応じて他機関紹介の検討などを行います。

③面接開始：多くは1週間に1回ペースで、ほぼ同じ曜日同じ時間帯に面接が行われていきます。ペースは相談者と面接者の話し合いのもとに決められます。お子さんに関する相談の場合には、保護者の面接が並行して行われます（別室が多い）。ペースはお子さんと同じ形で行われる場合やお子さんの面接を数回した後に1回ということもあります。

ここ6年間の延べ相談件数をまとめますと、2008年は601件、2009年は806件、2010年は895件、2011年は971件、2012年は866件、2013年は822件となっています。

筑豊・京築・北九州地域に唯一の大学院附属心理相談機関として、今まで以上に皆様のお役に立つことができますように、スタッフ一丸となって励んでいきたいと考えています。





ラーニングコモンズが 完成しました。

4月7日、小川洋福岡県知事を始め
入学式の来賓の皆様にご参加をいただき、
落成式を執り行いました。



アクティブ・ラーニングの活動拠点

ラーニング・コモンズの 開設について

大学教育が大きく変わろうとしている今日、ラーニングをアクティブにおこなうことが求められています。その拠点として、ラーニング・コモンズが注目され、施設を設置する大学も増加してきています。文部科学省の用語解説には、複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する、とあります。

ここにありますように、「場」を提供する機関として図書館が位置づけられ、学生の自学自習を支援する職員としても図書館職員が想定されています。しかし、議論を進めていく学習スタイルですので、今までの読書を中心とした静かな図書館とは、相いれないものでもあります。よって、同じ図書館のなかで、活発な議論をおこなってもらふ場所と、静寂な空間を確保する必要から、防音をおこなう必要が生じてきます。今回、看護学部分館にラーニング・コモンズのスペースを設置するに当たっては、壁を設置するのではなく、(写真のように)防音

ガラスで対応しました。これは照明ばかりでなく、アクティブな活動をおこなっている様子を、できるだけオープンな形で示すためでもあります。さらに、部屋は半間仕切りにし、最大3グループで使えるようにしましたが、机や椅子も移動できるようにし、グループの数や人数の変動に対応しやすいものとなっています。

4月に利用を開始しましたが、7月までの利用者の合計は以下のようになっています。

月	4月	5月	6月	7月
利用者合計(人)	156	390	274	426

大学の講義における内容で、演習・実習等の行使から変動はあるものの、順調に利用者が増加しているものといえましょう。また学生数1,000人程度の大学において、合計とはいえ4ヶ月で、学生総数を超える利用があったということは、アクティブなラーニングをおこなう場としてのこの施設が、いかに大きな意味をもっているかを、この数字が如実に物語っているものと思われます。



ゼミや実習のグループワーク等に利用されています。「必要な図書が近くにある」と好評です！



国際交流



韓国文化体験プログラム

協定校である大邱韓医大学校から「第6回韓国文化体験プログラム」に本校より2名の学生が招待されました。今年は5月11日～17日、7カ国から29名が参加者し、韓国語講座・韓国伝統服・工芸体験など充実した研修が実施されました。参加した本学学生によると他国の参加者へ日本の挨拶・お箸の持ち方・漫画やアニメなど日本文化を伝えるなど、韓国の文化を学ぶだけではなく参加者同士の国際交流を通じて、素晴らしい経験とグローバル時代における自信を身に付けることができたとのことでした。



派遣留学生だより

南京での留学生活は、初めての海外、初めてのルームシェア、初めてづくしで戸惑いつつも刺激的でした。留学のためにとったパスポートを見つ、これから自分はたった一人で大丈夫かと不安でいっぱいでした。ある日のこと、テイクアウトをして公園で食べていると他のクラスの留学生のお姉さんから声を掛けられ、中国人のおじさん達も一緒になって、辞書を使いつつ世間話をしました。あの時お姉さんに会えて本当に良かったです。それからのはびのびと留学生生活を過ごすことができ、クラスメイトと観光に行ったり、テスト勉強に追われつつも充実した日々でした。まだ半年ですが各国の留学生や中国の文化に触れることで、以前とは違う日本との向き合い方を学ぶことが出来ました。語学の習得はもちろんですが、中国をもっと深く理解出来るよう残り半年を大事に過ごしたいと思います。

公共社会学科 廣田麻里亜

現在、本学より韓国の三育大学校へ2名、
中国の南京師範大学へ1名の
計3名を派遣中です。

留学生支援事業報告

本学では日本・地域の文化歴史等を学ぶことで我が国に対する理解を留学生達に深めてもらうために、この事業を実施しています。また今年度より日本人学生の参加者も募り、アジアの若者同士の交流をすすめる取組も行っています。

さて、平成26年度の第1回留学生支援事業は日本有数の修験場として有名な英彦山の登山を行いました。神宮では留学生達が参拝の方法や鐘に興味を示し、写真もたくさん撮っていました。彼らにとって田川の歴史文化に触れる貴重な体験となったようです。

第2回、飯塚友情ネットワーク様主催「留学生と市民の集い」に今年もご招待頂きました。ダンスや歌などのステージもあり会場はとても盛り上がったようです。留学生達は地域の方々はもちろんのこと、他の留学生達と交流することにより、自身の夢、目標を再確認できたそうです。

第3回、最初に訪れたのは北九州市立いのちの旅博物館です。こちらは留学生達の故郷である中国、韓国の動物をはじめ、恐竜の化石も展示されており、生命の進化を実感していました。次に訪れたのは芦屋釜の里、茶の湯釜の作製工程をビデオ観賞し、その職人技に留学生達から感嘆の声があがる場面もありました。またおいしい抹茶も堪能しました。最後に今回留学生達が一番楽しんでいた遠賀の海岸へ。地元の方曰く、この日は年に数回しか見られない澄みきった海だったそうです。そんな最高の状態に恵まれた中、留学生達は海岸の散策をするとともに、飛び入りの地元小学生との交流も楽しむなど、充実した一日を過ごしました。





体育系サークル

バドミントン部

私たちはバドミントンサークルです。普段は週に2回、学内の体育館で「楽しむこと」を中心に活動しています。初心者も経験者も先輩も後輩も一緒に打ったり試合したりするので、部員同士の仲も良く、とても賑やかな雰囲気です。

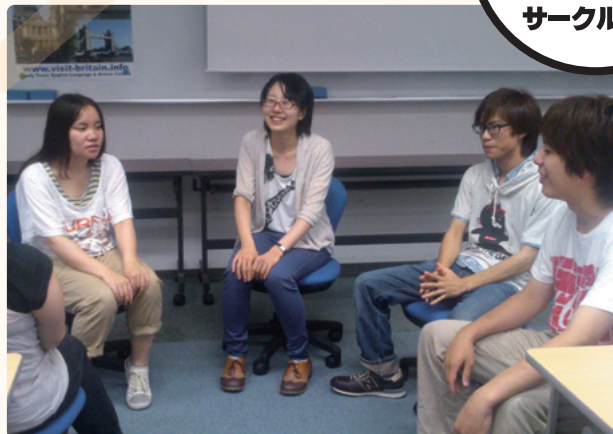
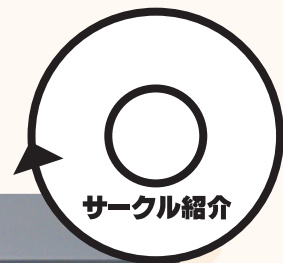
練習は、部員の要望も取り入れながらみんなが楽しめるよう心がけています。中でも、チームに分けて行う団体戦は盛り上がりやすいです。

主な対外試合にはインカレがあります。例えば、年に2回下関で行われるインカレでは団体戦や個人戦に出場できます。県大からの参加者も多く、自分の実力を試したり、他大学の人から刺激を受けたりする良いチャンスにもなります。

また、私たちのサークルでは、練習だけではなく、打ち上げや夏の合宿（旅行）を行ったりもします。普段の活動とは違う環境でメンバー同士の仲も深まりますし、笑顔が絶えません。さらに、これ以外にもイベントなどを増やしていこうと企画しています。

このように、バドミントンサークルでは、様々な経験を通して充実した大学生活を送ることができます。中には、「バドミントン、大学から始めても大丈夫かな？」と不安に思っている人もいるかもしれません。ですが、大学から始めた人は沢山いますし、基礎から丁寧に教えるのでその心配はありません。私たちと一緒に楽しく活動してみませんか？気になった方はぜひ体育館に練習を覗きにきてみて下さいね！

〔主将〕 人間社会学部 人間形成学科
3年 澤 志穂



文化系サークル

Eチャンネル

私たち E チャンネルは、福岡県立大学で活動する英語サークルです。週2回、1 時間半程度、LL 教室で活動を行っています。E チャンネルには、英語が好きな人、苦手だけど得意になりたい人、TOEIC で高得点がとりたいた人、英語がペラペラになりたい人、留学したい人など、色々な目的を持った部員が20名程度所属しています。

普段の活動は、TOEIC の問題を解いたり、洋楽を聴いたり洋画を見たり、英会話をしたりしています。現在はこの3つの活動が主ですが、活動内容については部員で話し合っていて決めているので、他にしたい活動があれば行うこともできます。E チャンネルは、アットホームな雰囲気なので英語が好きな人も苦手な人も楽しく活動できると思います。

英語と聞くと、学校でしてきた英語を思い出して嫌だなーと感じる人もいるかもしれません。しかし、洋楽を聴いたり、洋画を見たり、英語で話したりするのは暗記とは違い、とても楽しいです。E チャンネルでは楽しく英語に触れることを一番に考えています。楽しいと感じれば、英語を学ぶことが苦ではなくなるし、実際に外国の方と英語で話す機会があればなおさら楽しくなると思います。皆さんも私たちと一緒に英語を学んでみませんか。少しでも興味をもたれた方は、是非足を運んでみてください。

〔主将〕 人間社会学部 人間形成学科
3年 阿部 望



就職活動 奮闘記

県大キャリアサポには、産業カウンセラーとキャリア・コンサルタントの両資格を持つ相談員が4人います。

1年生から既卒者まで、就活・進学への気持ちの準備から、一緒に自己理解を進め、企業研究・履歴書・面接・グループディスカッションなど、幅広く最後まで対応しています。

「自分が何に合っているのか…」「書けなくて言えなくて行き詰まった」「うまく進まず心が折れそう…」様々な状況にいる学生一人ひとりに丁寧に向き合いながら、一人ではわからなかった自分に気付いて更に可能性を広げ、希望する将来へ向かっていけるよう支援を続けています。

キャリアサポートセンター相談員

江守 篤子



就職活動状況結果報告

看護学部 看護学科
泉 知子

内定先

九州大学病院

今回、九州大学病院に内定をいただきました。

ここで働きたい気持ちが強く就職活動は1病院に絞って対策・受験しました。試験についての詳しい情報がほとんど分からなかったため、試験の準備として大学で行われた国家試験模試のやり直しはもちろんですが、国家試験の過去問6・7年分、図書館で借りた一般常識のテキスト問題を中心に約3週間図書館に籠り勉強しました。また、面接練習に関してはキャリアサポートセンターで相談員の方に3回指導していただきました。試験当日は緊張もしていましたが、自分なりに準備も行ってきたので自信もありました。筆記試験は幅広い問題が出題されており、全体的に難しい印象でした。一方で、面接では気難しい雰囲気はなく、面接官の方々も穏やかな様子で緊張せず自分の考えを話すことが出来ました。

私は他の病院を受験するつもりはなかったので、内定をいただき正直ホッとしています。しかし、試験を通して憧れていた病院で看護師として働くためにも今まで以上に勉強しなければと感じています。内定がゴールではなく、社会人となっても自ら考え行動していくために、学び続ける姿勢を忘れず頑張っていきたいと思っています。



就職活動状況結果報告

人間社会学部 公共社会学科
川合 広海

内定先

三菱電機ビルテクノ
サービス株式会社

就職活動は3年生の12月に解禁と同時に始めました。元々は公務員を志望しており、一般企業はあまり視野に入れていませんでしたが、就活を進めているうちに自分の中で気持ちがシフトチェンジしていきました。企業選びの際、正直なところ年収、勤続年数、休日の多さ、福利厚生などの内面的な点を最重視していました。次点で BtoB である企業を探しており、実際の仕事内容についてはあまり絞らず、なるべく多くの企業の説明会に参加して働きたい企業を探しました。

就職活動は「縁」といいます。一理ありますが、厳しいことを言うと面接に通る人は通るべくして通り、落ちる人は落ちるべくして落ちていると感じました。面接がどういう場であるかを理解しているか、その中でどれだけ相手の求める答えに近づけるかで可否が決まっていると思います。これが全て正しいわけではありませんが、面接に慣れていくと相手の要求の「意味」や「目的」を瞬時に判断できるようになることは確かです。これは社会に出る際に必要な事であり、その点を面接という形で企業の方々は見ているのだと思います。

このように面接という様子を自分なりに解釈することで冷静に挑むことができました。

社会人となれば更なる障壁が出てくると思います。その際もこの就職活動における面接のように顧客ニーズを理解し応えることで、会社ひいては社会に貢献できる社会人を目指したいと考えています。



新役員・部局長

[H26.4.1 付]



教員兼務理事
人間社会学部教授
石崎 龍一

本年度から教員兼務理事（教育担当）に就任いたしました。就任して約5か月が過ぎ、担当範囲の広さや責任の重さを改めて感じています。

教員兼務理事として取り組むべき課題はたくさんございますが、特に課題を2つ挙げさせていただきます。1つ目は教育カリキュラムです。特に「全学横断型教育プログラム」の充実に取り組みたいと考えています。これは、学生が所属するコースでの専門教育に加え、自らの興味関心に従い全学横断型の科目群を選択履修することで多様な力を身につけることができる自由度の高い教育プログラムを目指すものです。2つ目の課題は、本学での「内部質保証システム」の整備です。これは、大学での教育活動や学習成果について自己点検・評価し、その評価を教育の質の向上や改善に結びつけるための体制作りです。平成28年度に、本学として2度目の認証評価受審を予定しており、内部質保証システムの整備は重要なポイントとなっています。本学の教育に少しでも貢献できるよう努力する所存でございます。



人間社会学部学部長
人間社会学部研究科長
田中 哲也

人間社会学部では、高度福祉社会を担う専門的職業人の養成という理念をさらに進化させるために、学部改革に着手いたしました。来年度より、これまで各学科別に行ってきた専門的職業人として必要な資格等取得や知識・スキル習得のための教育を、地域社会、社会福祉、心理臨床、こどもコースとして一層強化します。

さらに、新たなニーズに対応するために「援助力養成」「国際交流」「キャリア形成」という「全学横断型教育プログラム」を来年度より開設します。翌年度には「保健福祉情報教育プログラム」を加える予定です。

新しい制度により、学生たちは各コースを通してこれまでと同様、それぞれに専門的職業人として必要な資格、知識やスキルを習得するとともに、新プログラムを通して、ますます情報化、グローバル化する世界の中で、地域社会を支える中核的人材として働くために必要な新しい専門性も習得することができるようになります。



附属図書館長
人間社会学部教授
細井 勇

先日、同志社大学に開設されたラーニング・コモンズを訪問しました。大きな刺激を受けました。そこには「新しい学びの広場」が展開されていたからです。

現在、大学改革の中で学生を主体としたアクティブ・ラーニングの導入・強化が目指されています。しかし、そのための空間と設備の充実も大きな課題です。

本学でも今年度から図書館分館で、小規模ながら寄付金によってラーニング・コモンズが開設されることになりました。前館長の御尽力と寄付金を寄せて頂いた有志の方々に心より感謝申し上げます。

今後は図書館本館に本格的なラーニング・コモンズを開設し、図書館本館がアクティブ・ラーニングの拠点として大きく発展するよう、微力を尽くして参りたいと思っています。願いは必ず叶うものです。強く願うこと、実現を疑うことがないこと、あきらめないこと、それが大事です。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。



附属研究所長
人間社会学部教授
福田 恭介

附属研究所には4つのセンターがあります。

(1) 生涯福祉研究センター、(2) 不登校・ひきこもりサポートセンター、(3) ヘルスプロモーション実践研究センター、(4) 社会貢献ボランティア支援センターの4センターです。

これらのセンターでは、保健福祉、生涯発達、社会に関する実践的な研究・教育並びに地域支援活動を推進しています。附属研究所は、4センターの相互連携を調整するだけでなく、学外のさまざま機関とも連携を深め、福岡県立大学の学術研究水準の向上と高度福祉社会の創出をめざしています。また、附属研究所が保存・管理している世界記憶遺産をよりいっそう地域に向けて情報発信していきます。

今後、附属研究所は地域の知の拠点として、基礎から実践までさまざまな学内の研究を推進し、それらの研究成果を大学内だけでなく、地域とも協同しながら還元していくことを目指したいと思います。

新規採用教職員

[H26.4.1.5.1 付]

【人間社会学部】



講師
寺島 正博

本年度より社会福祉学科に着任し、障害者福祉を担当しています。研究については知的障害者生活ホームでの経験を基に、ソーシャルワークや従事者の専門職性に取り組んでいます。このような経験や研究を活かし実践に根ざした教育を心掛けると同時に、一人でも多くの学生が障害者福祉に興味を抱くことができるように努力していきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



講師
池 志保

今春より、人間社会学部人間形成学科に着任いたしました。学部と大学院にて、発達心理学及び臨床心理学領域の講義等を担当しております。こころを扱う学問の中でも臨床心理学は、人に役立つことを主な目的としているところにやりがいを感じております（発達心理学も広義でそうです）。医療や教育で培ってきた臨床の知を学生教育や社会に還元し、学問と実践とを橋渡ししていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【看護学部】



准教授
宮園 真美

本年度より臨床看護学系成人看護学領域に着任いたしました。学部では慢性看護学を、大学院ではがん看護学を中心に教育、研究に務めさせていただきます。研究テーマは「温熱刺激と看護」、「地域療養者のQOL」です。本年度から新カリキュラムとなりましたが、新体制においても学生が自ら学び成長するための力となれますよう、精進して参りたいと存じます。皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



講師
阿部 眞理子

4月にヘルスプロモーション看護学系学校保健領域の教員として着任しました。これまで神奈川県で小学校及び高等学校の養護教諭として38年間、玉川大学非常勤講師として4年間勤務する傍ら、横浜国立大学、慶応義塾大学、東海大学の大学院で学び、養護教諭の専門性とは何かについて、探求してきました。今まで蓄積した経験知を活かして、養護教諭を目指す学生の教育に携わっていきたくと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



助教
吉村 美奈子

今年度から看護学部在宅看護学領域に助教として着任いたしました。教員としても未熟で、慣れない日々を過ごしておりますが、周りの先生方から温かいご指導や励ましをいただき、事務の方々にも支えていただきながら毎日奮闘しています。私は実習指導者時代から学生が一生懸命に患者と向き合い、試行錯誤して援助を行う姿に感動してきました。今後も学生が心と体を動かしながら“看護”が学べるよう教員として尽くしたいと思います。



助手
青野 広子

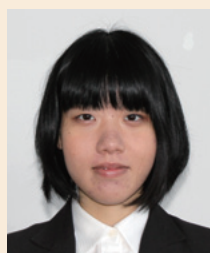
看護学部小児看護学領域の助手として着任いたしました。臨床経験を通して、病気をもつ子どもに質の良い支援を提供するためには、研究と後進の教育が大切ではないかと考え、教員を志しました。初めて大学教育に携わり不慣れた日々ですが、小児看護学領域の先生方をはじめ、皆様に支えられながら過ごすことができっております。この素晴らしい環境で、学生に看護の喜びを伝え、私自身も研鑽を積みたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】



経営管理部
経営企画班
氷室 佳一郎

本年4月にプロパー職員として本学に採用され、現在は経営企画班で、主に教職員の任用事務を担当しております。前職の銀行では融資担当として中小企業を回り、企業を取り巻く環境変化を日々感じてきました。大学も今後ますます変化していく時代にあるかと思いますが、学生や企業、地域の方々の期待に応える教育・研究機関として今後もあり続けるよう、職員の立場から組織を支えられるよう頑張ってまいります。



学務部
学生支援班
野見山 真衣

今年度より、プロパー職員として学務部学生支援班に配属となりました。大学という場で、学生、教職員、地域の皆さまに元気をいただき、気合を入れていただく日々です。自分の仕事がそういった皆さまの生活や活動を少しでも支えることに繋がっていると考え、大変うれしく、誇らしく感じます。自身の未熟さを悔しく思う場面もありますが、福岡県立大学の力になれるよう努力してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

本学では、日本学術振興会の科学研究費や文部科学省の補助事業等外部の資金を積極的に利用し、活発な研究活動を行っています。

2014(平成26)年度

科学研究費補助金交付決定一覧

[人間社会学部]

研究種目	氏 名	研究課題名
基盤研究 (A)	(教授) 細井 勇	岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究
	(教授) 神谷 英二	「まちの物語論」構築のための記憶・忘却・喪失・再生に関する現象学的解釈学的研究
	(教授) 田中 哲也	エジプト高等教育の拡大と市場化に関する総合的研究
	(教授) 福田 恭介	眼球運動・瞬目反応を用いた発達障害児の心理過程アセスメント
基盤研究 (C)	(教授) 本郷 秀和	「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」
	(准教授) 藤澤 健一	沖縄における小学校教員の職歴変化に関する基礎的研究—沖縄戦前後の「連続性」分析
	(准教授) 水野邦太郎	認知的 / 社会文化的アプローチを融合した多読プログラムの開発とその教育的効果の検証
	(准教授) 麦島 剛	ADHDマウスの衝動性と前注意機能を指標とした応用行動分析と薬物療法の統合の試み
	(講師) 寺島 正博	障害福祉サービスで起こる「無意識の虐待」の存在と防止モデルに関する研究
若手研究 (B)	(准教授) 奥村 賢一	ネグレクト防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する基礎的研究
	(准教授) 佐野麻由子	ネパールにおける市場化・準市場化と男児選好
	(准教授) 堤 圭史郎	旧産炭地における定着・流出・還流—貧困・生活不安定層の移動経験と労働—生活過程
	(講師) 河野 高志	多分野で展開可能なケアマネジメント方法に関する基礎的研究
	(講師) 鷲野 彰子	録音から辿る 19 世紀の演奏様式

[看護学部]

研究種目	氏 名	研究課題名
基盤研究 (A)	(教授) 松浦 賢長	卒後 1 年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究
	(教授) 尾形由起子	地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発
	(教授) 佐藤 香代	女性の産み育てる力を高める教育プログラムの検証と構築に関する研究
	(教授) 田中美智子	高齢者を対象とした日常生活下での睡眠評価と睡眠改善ケアの効果に関する研究
基盤研究 (C)	(准教授) 様 直美	認知症高齢者を抱える家族介護者の介護力獲得支援プログラムの有効性に関する研究
	(准教授) 鳥越 郁代	帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択への支援：看護職者による決定援助の評価
	(准教授) 古田 祐子	肌トラブルを有する乳児の皮膚洗浄法に関する研究—s 洗浄法の母子に及ぼす影響—
	(准教授) 宮城由美子	気になる子どもを含む発達障がい児の外来受診時における包括的支援プログラム開発
	(准教授) 宮園 真美	地域における循環器病患者の再発予防に向けた脚温サウナ看護プログラムの開発
	(講師) 原田 直樹	不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査—大学生の関わりを中心に—
	(講師) 山名 栄子	透析患者への動機づけ支援と行動変容プロセスの可視化ツールによる教育システムの構築
	(助教) 於久比呂美	臨床看護師の「自分磨きの極意」と「伝授法」に関する検討
	(助教) 吉田 恭子	小規模多機能型居宅介護における看取りケアに関する研究
若手研究 (B)	(准教授) 四戸 智昭	不登校・ひきこもりの子を抱える親の心理的特徴とグループミーティングに関する研究
	(講師) 増満 誠	うつ病患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の検討
	(講師) 安永 薫梨	精神科病棟における看護師への暴力防止のための患者教育プログラムの開発
	(助教) 坂田志保路	自殺企図を繰り返すうつ病をもつ人に対する病棟での予防的看護介入の検討
	(助教) 佐藤 蘭子	布製ナプキン使用による女子学生の心身への影響
	(助教) 吉川 未桜	看護職の専門性を効果的に発揮する子育て支援者コンピテンシーに関する研究
挑戦的萌芽研究	(教授) 永嶋由理子	看護技術の熟達化過程に伴う「感情変化」と「習熟度」に関する実証研究
	(講師) 加藤 法子	気管内吸引の吸引圧・吸引時間調整指標の開発
	(講師) 瀧野 由夏	看護師業務における業務上精神障害予防のための教育プログラムの開発

2014(平成26)年度

その他補助事業一覧

事業名称等	関係省庁	取組担当者	取組名称
大学間連携共同教育推進事業 (代表校)	文部科学省	(教授) 松浦 賢長	多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築
産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業 (連携校)	文部科学省	(教授) 石崎 龍二	地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト
産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマB】インターンシップ等の取組拡大 (代表校)	文部科学省	(教授) 石崎 龍二	中長期・実践型インターンシップ推進と教育的な指導体制の構築
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン (連携校)	文部科学省	(教授) 村田 節子	九州がんプロ養成基盤推進プラン

福岡県立大学基金のご案内

福岡県立大学では、学生生活、教育研究等の充実に図り、福祉社会に貢献できる人材を育成することを目的に基金を設置しています。寄附金は、学生支援、国際交流、教育研究活動等の事業を実施に活用されますが、用途を指定することもできますので皆様のご支援をお願いします。

なお、公立大学法人である本学への寄附は、所得税や法人税、個人県民税等の優遇措置が設けられていますのでご活用ください。

[寄附金受入口座]

福岡銀行 伊田支店 普通 2100481

口座名義 公立大学法人福岡県立大学 柴田 洋三郎

※寄附をされる場合は、事前にご連絡をお願いします。

[連絡先]

事務局総務財務班 TEL 0947-42-2118



福岡県立大学ホームページ

<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/>

在学生向け携帯サイト

http://www.fukuoka-pu.ac.jp/m_students/index.html

